# 大和郡山金魚史料について

A report of ancient documents of gold fishes in Yamato Koriyama

三木　理史*
Masafumi Miki

## 1　はじめに

本稿は、2004年秋に古書店目録で見つけ、注文した大和郡山の金魚養殖業の経営史料（以下、「金魚史料」とする）について報告するものである。10余年来継続している奈良県下の村絵図・地籍図類の収集調査では、現在でも稀に古書店に関係の図幅が出回ることがあり、全国の古書店目録を精力的に収集・調査している。そうしたなかで偶然見つけたのが本稿で紹介する金魚史料であり、最終的には本学土平講師および大和郡山市教育委員会の仲介によって、本史料の出所である大和郡山市立図書館が購入・所蔵することになった。

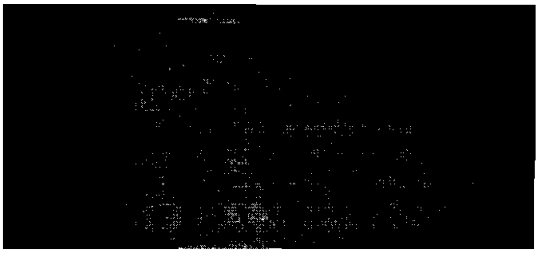

写真１　大和郡山金魚史料の全体

また、本史料の概略を紹介するための筆耕作業では、本学文学部地理学科４年次高橋清吾君（当時；現在は神戸大学大学院人文科学研究科博士課程前期に在籍）にお願いした。

## 2　郡山の金魚養殖と金魚史料

金魚史料は、表１に示すように大和郡山町・在の冨永長平が営んでいた金魚仲買商に関わる経営帳簿が中心となっている。判明する限りにおいて、時期的に最古のものが1880（明治13）年、逆に最新のものが1915（大正４）年となっている。大和郡山における金魚養殖業は、通説的には18世紀起源説が有力で、明治期に大量生産がはじまり、さらに昭和40年代をピークに減少に転じたとされる[1]。

郡山での金魚養殖の成立には、奈良盆地の気候条件とそれにともなう溜め池の多数の分布、そしてその利用が大きく影響している。特に郡山金魚の名声が確立したのは、明治維新以後に士族授産の一環としたことが原因しており、仲買人を経てこれを行商に託した。士族授産についで一般農家への奨励も行われ、京阪神地域はもとより、近江から北陸を経て信州から東京へ

平成17年９月２日受理　*文学部地理学科助教授

と行商範囲は拡大していた。

ところが、これら郡山金魚に対する通説は広く知られているが、その全国的な流通過程や行商の方法等の実態はほとんど明らかにされていないのが実状である。そうした状況を踏まえるならば、金魚史料は大量生産時代初期の状況を明らかにすることに資する内容である。また、同史料は冨永長平と冨永楢吉らの作成したものが中心で、彼らは当時郡山町西町に所在した金魚仲買人であり、これまで明らかになっていなかった流通過程や行商の方法の解明にも資することが期待できるであろう。

表1　郡山金魚史料の概要

| 番号 | 標題 | 年月 | 作成者 |
|---|---|---|---|
| 1 | 萬覚江帳 | 大正4年11月 | |
| 2 | 萬覚帳 | 明治27年 | 富永 |
| 3 | 錦魚賣帳 | 明治33年 | |
| 4 | 表題なし | 不明 | 富永楢吉 |
| 5 | 錦魚買物帳 | 明治30年 | |
| 6 | 錦魚請取帳 | 明治16年 | |
| 7 | 萬覚帳 | 明治22年 | 富永長平 |
| 8 | 錦魚売上証 | 明治13年 | 大坂たどんや |
| 9 | 指扣帳 | 明治28年 | |
| 10 | 親貸扣覚 | 不明 | |
| 11 | 錦魚売上通 | 明治18年5月 | たどんや |
| 12 | 金魚通 | (明治カ)22年 | 郡山会長 |
| 13 | 萬覚帳 | 明治33年 | 富永長松 |
| 14 | 萬覚帳 | 明治34年 | |
| 15 | 萬覚帳 | 明治36年 | |
| 16 | 錦魚製造扣 | 明治34年 | 富永長松 |
| 17 | 錦魚送り通 | 明治14年 | 富永長？ |
| 18 | 萬覚(帳カ) | 明治2？年 | |
| 19 | 萬控帳 | 明治15年 | 富永長平 |
| 20 | 錦魚送り帳 | 明治20年 | 富永長平 |
| 21 | 錦魚賣上帳 | 明治32年 | 郡山錦魚仲買　富永 |
| 22 | 金魚送り通 | 明治23年 | 富永長平 |
| 23 | 錦魚請取通 | 明治22年 | 大鮫楢太郎 |
| 24 | 金魚荷送り通 | 明治24年 | 会長 |
| 25 | 錦魚送り帳 | 明治20年 | 富永長平 |
| 26 | ？控日記帳 | 明治20年4月上旬 | |

## 3　金魚史料の諸相

金魚史料のいくつかを拾い、そこから明らかになる内容を予察することにしよう。

①萬覚江帳：唯一大正期に作成された文書であり、内容は取引先と取引金額を記載したものと考えられる。

②萬覚帳：1894年４月上旬の金魚仕入れに関する帳簿であり、「小長」、「鯉」等の魚種が記されており、当時の取引内容を知ることができる。また、若干の住所記載もあり、郡山内部における金魚取引状況にも一考を加えることができよう。

③錦魚賣帳：1900年４月以後の金魚販売状況に関する記録で、大半は販売者名のみの記載であるが、一部その村名を記載したものがある。ところで、金魚史料には「錦魚」と表記するものと「金魚」と表記するものの２種類があり、年代的にも両者は混用されている。養殖魚の種類によって使い分けていたものか、それとも明治期には双方の表記を混用していたものか定かではない。

④〔表題なし〕：冨永楢吉名義で、②と同様に金魚仕入れに関する帳簿と推定され、魚種の表記がある。

⑤錦魚買物帳：④と同様の金魚仕入れに関する帳簿で、魚種に関する表記がある。

⑥錦魚請取通：金魚史料全体としては初期に属する帳簿の１つで、魚種に関する表記が見られるが、入荷先の住所等はほとんど記載されていない。

⑦萬覚帳：冨永長平名義の金魚仕入れに関する帳簿で、魚種とともに取引先の住所記載がかな

り散見される。判明するものには「坊城村」等があり、奈良盆地の南部にまで取引先が拡大していたことを推定させる。

⑧錦魚売上証：冨永長平から金魚を仕入れていたと思われる大坂・たどんやの記録で、1880年 4～8月の非常に限定された期間ながら、取引日が明記されているのが興味深い。この史料でみる限り、金魚の取引はほぼ半月に1回のペースで行われていたことが判明する。また、魚種に関する記録もみられる。

⑪錦魚売上通：⑧の1885年5月分に相当する記録で、⑧での取引はほぼ半月に1回ペースであったが、その5年後にはそのペースがかなり崩れてきていたようである。

⑫金魚通：郡山会長名義で、金魚社中村氏宛に作成された帳簿で、金魚販売に関する記録と推定される。魚種に関する記録が見られる。

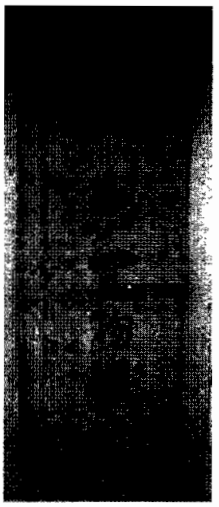

写真2
4・「金魚買物帳」の表紙

⑬萬覚帳：1900年4月からの店の諸経費帳簿と思われ、金魚に関する記録はほとんどない。

⑮萬覚帳：1893年4月上旬の金魚仕入れに関する帳簿であり、②に先行する内容と考えられる。魚種が記されているのが特徴である。

⑯錦魚製造扣：冨永長松名義で、1901年4月～の金魚養殖量を池単位でまとめた内容が興味深い。

⑰錦魚送り通：1881年4月から冨永長平が大鮫楢太郎宛に金魚を送った記録となっている。

⑱萬覚（帳ヵ）：明治10年代ある時期（表紙の破損によって年代判読不可）の金魚仕入れに関する帳簿であり、②や⑮と同様の内容と思われる。

⑲萬控帳：冨永長平名義で、記録中に「××円請取」のような用語が散見されることから、金魚販売に関する記録と思われる。やはり魚種については詳細な記録が見られる。

写真3
16・「錦魚製造扣」の表紙

⑳錦魚送り帳：1887年に冨永長平が大鮫楢太郎宛に金魚を送った記録であり、⑰の後継記録になると考えられる。魚種が正確に記録されている。

㉑錦魚賣上帳：1899年4月以後の金魚販売状況に関する記録で、販売者名とその魚種を知ることができる。

㉒錦魚送り帳：⑰・⑳を継承した1890年に冨永長平が大鮫楢太郎宛に金魚を送った記録である。魚種が正確に記録されている。

㉓錦魚請取通：1889年に冨永長平が大鮫楢太郎宛に送った金魚の受取記録と思われ、時期的には異なるが、⑰および⑳のタイプの記録に対応するものであろう。

㉔金魚荷送り通：1891年に「会長」名義で大鮫楢太郎宛に送った金魚の送付記録で、内容的には⑰・⑳を継承したものと思われる。

㉕錦魚送り帳：1887年４月からの木ノ村・長本未吉宛の金魚送付記録で、内容的には⑰・⑳・㉒・㉔等と共通するものであろう。

㉖？控日記帳：1887年４月からの金魚送付記録と思われ、興味深いのは氷上郡（兵庫県）への出荷記録が見られる点であろう。

## 4　おわりに

金魚史料は、これまで未解明であった郡山金魚養殖業の大量生産期の流通状況を明らかにするうえで資する点が少なくないと思われる。今後はこの史料を活用することで、郡山金魚養殖業の発展過程をより実証的に明らかにしてゆきたいと考えている。

## 【注】

1）柳沢文庫専門委員会編『大和郡山市史』大和郡山市役所、1966年、830～835頁。奈良地理学会編『大和を歩く―ひとあじちがう歴史地理探訪―』奈良新聞社、2000年、106～107頁。